

エッグトラップの実証試験

1. 使用するワナ

The Egg Trap Company 製のエッグトラップ（はじきバネ式手取ワナ）

1983年アメリカ合衆国アイオワ州トンプソン獣医学博士によって考案される。1987年にアメリカ合衆国特許取得。その後アルバータ州、イリノイ州およびイリノイ大学、ミシシッピ大学によるフィールド研究、行政機関および民間の有害獣駆除などで用いられている。使用実績はハワイを除くアメリカ全州およびカナダ、ドイツ、ポーランド等であり、販売は年間3000個以上。1985年から販売し、捕獲総数は数百万等を超える。販売責任者個人で1989年以降3,000-3,500頭の捕獲実績がある。



エッグトラップの特徴

写真：The Egg Trap Company HP (<http://www.theeggtrapcompany.com/>)

(1) アライグマの損傷が少ない

生体捕獲用足ワナ（Soft Catch）よりも少ないことは科学的に実証済（Journal of Wildlife Disease, 1993）



(2) 設置方法によって誤捕獲を少なくすることができる



木からつるす、杭の上に立てる、水面上に設置するなど

2. 対象動物

姫路市立動物園の協力を得て、展示動物である下記の種について試験した。
アライグマ、タヌキ、キツネ、ニホンザル。
また室内にて飼育されているネコについても試験した。

3. 方法

動物園では、毎日の給餌時間である 14 時すぎにエッグトラップに主として日常の餌を入れ、トリガーをセットせずに地面と壁面高さ約 50cm にセットした。エッグトラップに興味を持つようすべてのエッグトラップで餌が外に少しはみ出るように工夫した。その後各動物のエッグトラップによる反応をビデオと目視によって観察した。

ネコについては食餌前にエッグトラップ内に玩具および餌を入れて反応を観察した。

4. 結果

複数頭飼育されていたタヌキ、キツネおよびニホンザルではエッグトラップに興味を示す程度が個体によって大きく異なった。いずれも特定の個体のみがエッグトラップに興味を示した。これは飼育経歴などによって影響される個体の性質による差であると考えられた。

種による反応の差

(1)アライグマ

鼻や目でエッグトラップの中を軽く確認した後、すぐに手を入れた。地面に固定されたトラップに最初興味を示し、片手でトラップを固定しもう一方の手でトラップ内の餌を手でとった。その後不安定な状態壁面に吊されたトラップについても片手でトラップを固定し、もう一方の手でトラップ内の餌を手でとった。吻部をトラップ内に深く差し入れることはなかった。



鼻、目で軽く確認



地面のトラップ
片手で押さえて手を入れる



吊したトラップ
片手で押さえて手を入れる

(2)タヌキおよびキツネ

鼻あるいは目で餌が地面に置かれたトラップ内にあることを感知したのち、まず口でトラップそのものをくわえようと試みた。その後前肢でトラップを掻く仕草を続けた。下顎をトラップ内に差し込みトラップの壁面をくわえることもあった。ほとんどの時間が地面に置かれたトラップに対し費やされたが、吊されたトラップにも臭いを嗅ぐなどの興味は示した。ただしくわえたりたたいたりといった行動は起こさなかった。※タヌキおよびキツネの口吻長ではエッグトラップのトリガーをひくことは不可能である。



タヌキ：鼻、目で確認



キツネ：鼻、目で確認



タヌキ：咬む



タヌキ：掻く



タヌキ：咬む



タヌキ：掻く

(3)ニホンザル

トラップの外にはみ出していた餌には反応したが、奥に固定されている餌に気づくまではトラップに対する興味を完全に失っていた。調査協力者がエッグトラップを傾け中の餌を見せた後、興味を示し、手や足を使ってトラップを固定して中に手を入れた。成獣個体の手でも完全にトリガーを引くことが可能である。吊したトラップについても中に餌があることを気づかせた後は、片手でトラップを固定してもう一方の手でトラップ内の餌を手でとった。



地面においたトラップに手を入れる



吊り下げたトラップに手を入れる

(4)飼い猫

地面に置いた場合はトラップの中を覗き、比較的短時間で手を入れた。餌がトリガーについていなくても無意識にツメでトリガーを引いてしまう可能性がある。吊したトラップにはほとんど興味を示さなかった。



地面においたトラップを覗く



手を入れる

5. 結論

物理的な構造から考えられる誤捕獲の可能性は以下のようにまとめられる。

タヌキおよびキツネではつり下げたエッグトラップに四肢を入れる可能性は極めて低い。しかし、地面においた場合には偶然入ってしまう可能性も否定できない。ネコではつり下げたエッグトラップで誤捕獲される可能性は低い、地面においた場合には誤捕獲される可能性が高い。ニホンザルでは誤捕獲の可能性がある。

以上の結果を踏まえ、さらに餌の種類や設置方法による検討が必要である。